



サイジヤナル

月刊
29-11-12
第436号

日本サイ科学会 平成 29 年 11 月 1 日発行

本部 〒271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町41-506 郵便振替 00100-2-15344 日本サイ科学会
電話 047-347-3546 FAX 047-330-4091 E-mail office21@psj.mail-box.ne.jp

東 北 〒981-0904 仙台市青葉区 旭ヶ丘1-36-1 アサビル201号 佐佐木 康 二 ☎ 022 (279) 0908・FAX 022 (274) 0097	中 部 〒455-0053 名古屋市港区 名四町113 眞 野 博 英 ☎・FAX 052 (651) 3799	北 陸 〒920-0864 金沢市高岡町12-45-1F ホリスティック健康科学研究所内 佐 藤 禎 花 ☎ 076 (234) 6634	関 西 〒596-0807 大阪府岸和田市 東ヶ丘町808-153 河 野 明 夫 ☎ 072 (445) 7737・FAX 072 (445) 7796	九 州 〒851-2122 長崎県西彼杵郡 長与町本川内16-6 森 安 政 仁 ☎ 095 (883) 6048・FAX 095 (883) 6159
--	---	--	--	---

十二月本部例会のお知らせ

忘年会も兼ねた会員の体験意見発表と討論の会

毎年恒例となっている一人の講師の講演ではなく、参加者の皆様からの UFO、超常現象、心霊現象、オーブ等サイ現象に関する目撃・体験や意見の発表、それらをテーマにした意見交換・討論等、気楽な感じで懇談会を開催致します。

皆様の中で、ご自分で撮った不思議な写真、ビデオ映像等をお持ちでしたら是非ご持参してください。

スプーン曲げ等の念力、透視能力・予知能力などサイ能力に自信のある方、または友人、知人に能力者のいる方は是非お連れしてください。また、ご自分では気が付いていないのに、思いがけない超能力を発揮する方もおられるかもしれません。

発表は一人20分位ですが、希望者は事務局に内容も含めて、メール願います。

E-mail office21@psj.mail-box.ne.jp

特別講師はおりませんが、参加者の皆様の自由な発言でいつも楽しい会になりますし、終了後の懇親会も面白い話題で盛り上がります。

参加費は、会員、一般とも千円です。ので、気楽にご参加願います。

日時 平成29年12月9日(土)

午後1時30分～4時30分

会場 北とびあ7階701会議室
J R 京浜東北線王子駅下車
徒歩2分、ホーム最北端(赤羽寄り)の階段を下り改札口を出て見える高層ビル

会費 一〇〇〇円

※11月と1月の本部例会はお休みとなります。

◆ ◆ ◆
※本年度年会費未了の方へ

平成29年度年会費お振り込みが済んでいない方は、早めのお振り込みをよろしく願います。

今月号の記事

- ◎12月本部例会のお知らせ
- ◎御寄付御礼
- ◎関西サイ科学会11月、12月、1月研究集会のお知らせ
- ◎第6回スピリチュアル研究分科会のお知らせ
- ◎第32回宇宙生命研究分科会のお知らせ
- ◎第1回占星学と運命創造学の研究分科会のお知らせ
- ◎六月通常総会報告I
- ◎平成29年6月本部例会報告II
- ◎第四一九回関西サイ科学会報告
- ◎第四二〇回関西サイ科学会報告
- ◎大気イオン生命体としてのラビット・オーブについて

「心を科学する博物館」と

一般の御寄付御礼

(10/15受領分まで)

金五万円也	匿名様
金二万円也	匿名様
金五四六円也	吉田一美様

関西日本サイ科学会 十一月研究集会のお知らせ

「点穴武術気功」とは
実践気功と人体の関係―

講師 葛村 和弘氏

(武術気功家)

日時 平成29年11月18日(土)

午後1時30分～5時

会場 大阪科学技術センター
六〇五号室

交通 地下鉄四つ橋線本町駅下車

北へ徒歩5分 靱公園内

会費 会員二千円(当日入会可)

一般三千円 学生一千円

問合せ072・445・7737



関西日本サイ科学会 2017年忘年の放談会

非会員の方も大歓迎です。
十二月の研究集会はお休みです。

日時 平成29年12月2日(土)

午後5時30分より
場所 山海倶楽部
06(6443)0209

※大阪市西区京町堀1・4・3

T C F 肥後橋ビルB1階

※参加ご希望の方には会場案内図
をFAX等でお知らせ致します。

参加費 四五〇円

※11月29日(水)までに、会長の

河野までお申し込み願います。

072・445・7737



関西日本サイ科学会 一月研究集会のお知らせ

空海さまと七福神が隠して
伝えた世界文明の起源

講師 上森 三郎氏

日時 平成30年1月20日(土)

午後1時30分～5時

会場 大阪科学技術センター
七〇一号室

交通 地下鉄四つ橋線本町駅下車

北へ徒歩5分 靱公園内

会費 会員二千円(当日入会可)

一般三千円 学生一千円
問合せ072・445・7737



第6回スピリチュアル研究 分科会のお知らせ

意識の側面から見る、サイ
科学とは

講師 寺山 心一翁氏

「思考」がなせることは、生命
全体では小さな領域です。からだ
の内外、生命全体で「感じる」と、
物事をとらえる「意識」が変わり
ます。それには、頭を空にして、
余計な知識をそぎ落とし、無邪気
な状態になることです。私は33年
前に腎臓がんになりました。デー
タがすべての典型的なエンジニア
でしたので、病気になるなければ、
意識のことは無縁の世界にいた
でしょう。

感謝の気持ちを感じる時、無条
件の愛が感じられる時も、意識が
変わる状態と言えます。無邪気に
なると、サイは科学を超えたこと

ろに存在することもよく感じられ
ることでしょう。また、思考を超
えると知識は私たちの中に活きる
智慧となります。今回は、考える、
から感じる、へ変わるこの大切
さを中心に、私なりのサイをお話
しできればと思います。

※寺山心一翁先生はご自身でがん
を克服され、病を癒す過程で気づ
いた多くの智慧は、人生に起きる
さまざまな困難を解決する鍵とな
りました。

ワークショップを通して自分へ
の気づきを深め、心の扉を開いて
いくと、ハツとする瞬間が訪れて、
あなたの人生が光り輝くように変
わっていきます。寺山先生のチェ
ロの奏でる音色に癒される必見の
ご講演でもあります。お友達を誘
われ是非お越しください。

◎寺山心一翁氏のプロフィール
(有)寺山心一翁オフィス代表、
「意識の超越理論」創業者。

1936年東京生まれ。早稲田大
学理工学部卒。東芝で半導体素子
の開発等に従事。経営コンサルタ
ントとして独立し、多忙を極めて
いた47才で腎臓がんを患う。病の

回復過程で意識の変容を体験し、
 がんがその後治癒。この経験から
 意識の大切さを痛感し、以来30年
 以上愛用のチェロを片手に国内外
 で、意識や自然治癒に関する講演、
 愛と癒しのワークショップを行っ
 ている。

日時 平成29年11月5日(日)

午後1時20分～4時30分

会場 北とびあ9階901会議室
 JR京浜東北線王子駅下車

徒歩2分、ホーム最北端(赤

羽寄り)の階段を下り改札

口を出て見える高層ビル

会費 会員 一千元(当日入会可)

一般 二千元 学生 一千元

※事前参加申し込みは不要です。

※当日会場にて直接、現金にて

参加費をお支払い下さい。

第32回宇宙生命研究分科会

第5回異能科学会議

テーマ「エネルギー…宇宙生命
 エネルギー」

日時 平成29年12月3日(日)

午前10時～午後5時45分

会場 品川健康センター会議室
 (品川区北品川3・11・22)

交通 京浜急行新馬場駅徒歩2分

JR京浜東北線大井町駅東

口から東急バス「渋谷駅」行

で「新馬場駅前」下車

会費 会員 一〇〇〇円(日本サイ

科学会・サトルエネルギー学会)

一般 二〇〇〇円

・事前参加申し込みは不要です。

・当日会場にて直接、現金にて

参加費をお支払い下さい。

第1回 占星学と運命創造学 の研究分科会

今回のテーマ

波動占星学と運命創造曼荼羅

★分科会設立趣旨

個人の運命に大きな影響を与え
 る「パソナリテイ」の診断に優れ
 た「西洋占星学」の基礎から、将来
 は応用まで紹介し、有名人のケー
 ススタディをしたり、星の動きか

ら時代の流れの読み方を学んでい
 きます。

将来的には才能診断に最適な先
 進のハーモニクス理論も紹介し、
 ケーススタディ、個人診断、チャ
 ートの統計的解析もしていきます。

また、占星学等で自分の本質を
 知った上で、宿命論的な運命学で
 はなく、PK・ESPの使い方も
 含めた「運命創造学」を皆さんから
 の体験も含めて、構築していきま
 す。

セミナー形式で中国占星学やイ
 ンド占星学、タロット等他の占星
 学の研究者の発表も歓迎致します。

※毎回2名の診断希望者のホロス
 コープ(出生天宮図)をケーススタ
 ディとして診断し、参加者全員で、
 ホロスコープの読み方を学んでい
 きます。(出生時刻と出生地が分か
 るとベストです。)

占いの好きな方、自分の真の本
 質を知りたい方、自分の運命を変
 えたい方は是非ご参加ください。

★「波動占星学と運命創造曼荼羅」

西洋占星学では、赤ちゃんが「オ

ギヤーツ」と生まれた瞬間の、場の
 オーラ波動がアストラルボディ(幽
 体)に刻印されると考えており、
 その波動が「ホロスコープ(出生天
 宮図)」や「アストロハーモニクチャ
 ヤート」に表現されます。

その仕組みの説明や、ホロスコー
 プ診断の基礎について解説し、
 自分の真のパソナリテイと今生
 のミッション(使命)を知ること
 を目指します。

また、才能発見育成研究所オリ
 ジナルの「運命創造曼荼羅」をお渡
 して解説し、PK(念動力)、ESP
 (テレパシー、透視、予知等)能
 力の養成も含めて、参加者の皆さ
 んと協力しながら、新たな運命創
 造の旅を始めます。

(世話役 瀬尾泰範)

日時 平成30年1月7日(日)

午後1時30分～4時30分

会場 北とびあ9階901会議室
 JR京浜東北線王子駅下車

徒歩2分、ホーム最北端(赤

羽寄り)の階段を下り改札

口を出て見える高層ビル

会費 会員 一千元(当日入会可)

一般 二千元 学生 一千元

※事前参加申し込みは不要です。
※当日会場にて直接、現金にて
参加費をお支払い下さい。

六月通常総会報告I

日本サイ科学会

会長 浪平 博人

◎平成28年度本部事業報告

1. 会員の現状

(平成29年5月末現在)

名誉会員	1名
維持会員	4名
正会員	167名
学生会員	23名
準会員	49名
合計	244名

2. 講演会、研究集会

本部は10月の「創立40周年記念大会」を含み、計17回の例会・分科会を開催した。

◎本部例会・大会(敬称略)

平成28年

4月9日(土) 沖田祐美子「神々

の謎」

5月14日(土) 河野貴美子「意識、無意識、そして潜在能力を脳の観点からどこまで解明できるか?」

6月26日(日) エスパール・小林

「『運』がつく人、『霊』が憑く人」

7月9日(土) 不思議体験談、写真映像発表・討論会

9月10日(土) 志賀一雅「7.8Hzの

スローα波の驚異」

10月16日(日) 創立40周年記念大会

シンポジウムテーマ「地球

外知的生命・UFOと宇宙人

(宇宙人サミット)」

12月10日(土) 藤枝伸二「藤枝流

健康増進法」

平成29年

2月19日(土) 秋山佳胤「私たち

の存在の本質について、波動

的、物質的視点から考える」

◎分科会

●宇宙生命研究分科会

(世話役 阿久津 淳)

2016年

7月30日(土) 第28回「第10回U

F・オーブシンポジウム」

12月4日(日) 第29回「第4回異

能科学会議」

2017年

3月26日(日) 第30回「第9回ヒ

ポクラテスシンポジウム」

●スピリチュアル研究分科会

(世話役 小林 信正)

2016年

4月24日(日) 第4回スピリチュ

アル研究分科会

11月20日(日) 第5回スピリチュ

アル研究分科会

●分科会気づき

(世話役 浪平 博人)

2016年

9月24日(土) 第1回分科会気づき

12月18日(日) 第2回分科会気づき

2017年

1月15日(日) 第3回分科会気づき

3月5日(日) 第4回分科会気づき

3. 通常総会 平成28年6月26日

北とぴあ第一研修室で開催

4. 全国理事会・評議員会

平成28年6月26日

北とぴあ第一研修室で開催

5. 本部理事会(第200回)第

205回)を4月、5月、7月、

9月、12月、2月と6回開催し

た。

6. 出版物 「サイ科学」第38巻

第1号を発行した。

「サイジャーナル」第427号
から第432号までを発行した。

◎平成29年度本部事業計画

・10月15日(日)に第26回全国大会(シンポジウムテーマ「AIを乗り越えるのは?」)「人工知能」vs PSI「サイ能力」を開催する。

・定例会を6回(4、6、7、9、12、2月)開催する。

・宇宙生命研究分科会を3回(7、12、3月)開催する。

・スピリチュアル研究分科会を1回(11月)開催する。

・分科会気づきを適宜開催する。

・本部理事会、全国理事会評議員会を開催する。

・サイジャーナルを6回発行する。

・論文集「サイ科学」を発行する。

・公式サイトを運営する。

・「心を科学する博物館 サイ科学遺産」の資料を整備する。

・その他

○活動方針として

- ・刊行物に種々の分野の解説・応用や新鮮な情報を増やす。
- ・会の活性化を図るため、例会等でアンケートを実施、活用する。
- ・謎、不可思議と思えるミステリー写真や映像などを募集し、展示発表する。
- ・体験型やセミナー（ワークショップ型）の例会を開催する。
- ・インターネットの公式サイトやメルリングリストを活用する。
- ・雑誌等の告知欄やメールマガジンに行事の予告を載せていく。
- ・地方日本サイ科学会との連携を深める。
- ・地方からも講師を招く。
- ・理事や若手の幹事（理事候補）、評議員を増やす。
- ・その他

◎地方日本サイ科学会

東北日本サイ科学会

会長 佐佐木 康二

◎平成28年度事業報告（敬称略）

平成28年

4月9日 第206回研究会総会

*平成27年度事業報告、平成28年

度事業計画

*「血液の浄化が難病を癒す。（自分の潜在意識の記憶が病を生む原因である）―精神の安定、食べ物の内容と量、適度な運動の恒常化―」宮田 信

6月11日 第207回研究会

*「上位スピリットに質問し答えを受け取る装置」佐佐木 康二

8月13日 第208回研究会

*「ハイアーセルフが認める金運アップ法」佐佐木 康二

10月8日 第209回研究会

*「サイ・バイオフィードバック 真のサイ能力発現実感」佐佐木 康二

12月10日 第210回研究会

*「上位スピリットからみた霊能とお金の対立」佐佐木 康二

平成29年

2月11日 第211回研究会

*「意識を高次元に保てば真のサイ能力が発揮される ―ニュートリノ振動」佐佐木 康二

◎平成29年度事業計画

東北日本サイ科学会は、創始者 岡田幸千生が掲げた目的、「聖人及び超能力者の先人たちを出来る

だけ深く探求して、誰でも本来的に持っているはずの超能力を万人に成長させて人類の活動能力を本質的に高めること」を今後も目指し、次の事業を行う。

1. 定例研究会の開催
定例研究会を偶数月第2土曜日に開催する。先人や研究者の成果を学び、また各人の知恵と知識を持ち寄る。サイ科学関係の著名人の講演会等は計画としては準備せず、機会がある折りに考慮する。
2. 「東北日本サイ科学会研究抄録」の編集
3. 長期研究テーマの推進
サイ現象の観測量化―「スカラ―波カメラ」等の開発、気・意識の種類の見分け方、「念写」写真・「オーブ」画像等の分析・検証（福来心理学研究所との共同研究）、意識純化・宇宙意識への目覚め、地震予知、数秘術・秘数の科学性の研究、フリー・エネルギー装置の研究、過去世・霊性・霊能の研究、食とサイ能力の関係の研究
4. 講演会等の開催
「念写実験」等のテーマで5月、8月に実験会を開催する（福来心理学研究所と共催）
5. 会推進スタッフの充実、本部

会員・会員の勧誘

6. 「岡田文庫」（福来心理学研究所との共同事業）及びビデオ資料等の閲覧サービス・管理

中部日本サイ科学会

会長 眞野 博英

◎平成28年度事業報告

研究会Ⅰ

日程 平成28年9月10日（土）

会場 博愛癒院

研究会Ⅱ

日程 平成29年3月25日（土）

会場 博愛癒院

◎平成29年度事業計画

研究会Ⅰ

日程 平成29年9月9日（土）

会場 博愛癒院

研究会Ⅱ

日程 平成30年3月24日（土）

会場 博愛癒院

北陸日本サイ科学会

会長 佐藤 禎花

◎平成28年度事業報告（敬称略）

平成29年2月26日（日）

「意念と物質の関係について」

講師 清田 益章（スプーン曲げ超能力と「おのり」）

佐藤 禎花（ホリスティック健康科学研究所代表・日本サイ科学会理事）

◎平成29年度事業計画

9月予定。（内容、詳細は未定・計画中）

九州日本サイ科学会

会長 森安 政仁

◎平成28年度事業報告（敬称略）

平成28年

9月11日（日）藤本満正「私の世界」

◎平成29年度事業計画

平成29年

7月2日（日）小林信正

橋本和哉

11月5日（日）研究集会

※関西日本サイ科学会の平成28年度事業報告、平成29年度事業計画はスペースの関係で次号に掲載させていただきます。

平成29年6月本部例会報告Ⅱ

人類の存亡を分けるもの

講師 小林 敦氏

●チャネリングの始まり

2012年11月、私はちよつと特殊なセラピーを受けました。例えばヒプノセラピーがそうであるように、そのセラピーも一種の誘導催眠から始まりますが、過去の記憶に退行するのではなく、意識の次元を徐々に上げていき、最終的には守護霊などの高次元存在とつながってメッセージを得る、という趣旨のものでした。今考えると、どうやら初めからある種のチャネリングを目指すセラピーだったようです。

私は最終的に、ふと気がつく宇宙船のようなものに乗っていました。丸い窓の向こうに地球が見えていました。横を見ると、ワタリガニのような輪郭にアーモンド型の巨大な目、口は猛禽類の嘴のような宇宙人がいました。ビツクリしました。もつとビツクリし

たのはその宇宙人の方だったようです。それはそうでしょう、見知らぬ地球人が突然自分の宇宙船の中に現れたのです。

しかしそこから会話が始まりました。その宇宙人は「ラムジー」と名乗り、プレアデスの星から、地球監視役としてきているとのことでした。どうやら地球人は今、非常に際どい状態にあるようなのです。

それから四日後、朝目が覚めた瞬間に、突然ラムジーさんの声が聴こえてきて、そこからほぼ毎日、三年間にわたるチャネリングセッションがスタートしました。

ラムジーさんによると、私はやはりプレアデスから派遣された地球先遣隊の一員であるとのこと。しかし一向に報告が上がってこないの、それも含めて地球（人類）の現状を調査にきているとのこと。そこから、ラムジーさんによるあの種の「啓蒙」が始まりました。

●人間の葛藤の堆積が人類を窮地に陥れている

ラムジーさん曰く。

「今準備されているのは、意識の

エネルギーシフトです。今、あなたたちの世界では、無意識が優位に立っています。あなたたちは、無意識に動かされているのです。無意識にあるものを意識に昇らせ、意識を優位に立たせる必要があります。それによって、葛藤がどんどん昇華されていくのです。

無意識というものがすべて意識の領域に変換され、葛藤というのがまったくなくなった状態を想像してみてください。問いを投げかければ、すぐに答えが返ってきます。しかも、その答えは、個であると同時に全体です。個人的な問いに対する答えであると同時に普遍的な問題の答えでもあります。」

よく「アセンション」という言葉を使いますが、ラムジーさんの言う「意識のエネルギーシフト」も、人間の意識レベルがより高次の状態に移行することを意味しているようです。人類は今まさにそうした移行期に入っているのです。

私はラムジーさんに、究極の質問とも思えるものを投げかけてみ

ました。

「人間はなぜ、戦争を起こして互いに殺し合い、支配と被支配（社会格差）の構図を作り、地球に対しても破壊的な振る舞いを繰り返しているのですか？」

それに対するラムジーさんの答えは次のようなものでした。

「あなたたちの中に、大きな葛藤があります。」

その葛藤は、あなたたちの意識の進化とともに増えていつているように見えます。通常は、大きな葛藤が生じたら、それを統合することによって意識は次の段階に進化しますが、あなたたちは葛藤の統合をすっかり棚上げにしてしまっているようです。それらの葛藤は、古いものの上に新しいものが積み重なるといふかたちで溜め込まれています。そうした宿題を溜めたまま進級しようとする、ひびきが生じます。そのひびきは今、非常に危険な状態にまで来ています。このまま放っておくと、取り返しのつかない事態にまで発展しかねません。

あなたたちが今まで積み重ねてきてしまった人類共通の葛藤の見取り図を作ってごらん下さい。

それはいわば葛藤の履歴書でもあります。それをたどってごらん下さい。あなたたちが最初に抱いたそもそもの葛藤、いわば人類最古の葛藤の原点にまで遡って、それを統合できるなら、宿題は一挙に片付くかもしれません。」



ならばご一緒に、人類最古の葛藤の原点にまで遡ってみましょう。そもそも「葛藤」とは何でしょう？

選択肢AとBの間で揺れ動き、結論が出ない状態と言ったらいいでしょうか。このときの選択肢A

とBは、たいていの場合、まったく正反対の概念です。ハムレットが「生きるべきか、死ぬべきか」と悩んでいるのと同じです。ところが、選択肢がはっきりしない、あるいは見せかけのAとBの間で発生する葛藤というものもあります。実はこの正体のはっきりしない葛藤の方がやっかいです。本人は、自分が葛藤の最中にあることさえ気づいていないのです。

例を示しましょう。これは実話です。

一人の女性が、ある心理療法を受けるため、セラピストのもとを訪れます。やがて彼女は、知的で優しいセラピスト（しかも綺麗なブルーの瞳）に好意を抱くようになります。そして彼女はセラピストの誕生日に綺麗なブルーのネクタイをプレゼントします。

「このネクタイは、あなたの瞳の色と同じだから、あなたにピッタリだと思って選びました」

ところが、そのセラピストの目は茶色だったのです。するとセラピストは、鏡を持ってきて彼女の目の前に差し出して言います。

「さあ、よく見てごらん下さい。」

綺麗なブルーの目なのは、あなたですよ」

さて、この青い瞳の女性に何が起きていたのでしょうか？

彼女は、人に自慢していいようなチャームポイントでさえ、自分に備わっていることが信じられませんが、青い瞳の人を見るたび、彼女はその人を羨望の眼差しで見ているかもしれません。青い瞳にコンプレックスを抱き、鏡に映った自分の姿さえかすんだり歪んだりして見えます。一種の自己不信感も加わってくるでしょう。何事にも引っ込み思案で、人生に前向きになれないといった事態にも発展し、そうした症状が高じると、しまいには人の視線が自分に突き刺さってくるように感じたり、誰かが自分のそうしたネガティブな側面を噂し、非難したり見下したりしているように感じたりするかもしれません。

●影の投影

心理学や精神分析の伝統の中で、異口同音に語られている人間の心のメカニズムでは、人間の自我は

大きく二つの部分に分かれると言われています。ひとつは「仮面（ペルソナ）」と呼ばれる部分で、これは地球で言うと、太陽の光が当たった「昼」の部分です。もうひとつは「影（シャドウ）」で、まさに地球の裏側、太陽の影になった「夜」の部分です。

「仮面」は、普段他人に見せている自分、それが自分のすべてだと思いついて入っている自分、そのように人から見られていれば都合がいいと思いついて入っている自分、常識や社会通念に合致している自分です。一方「影」は、仮面とは真逆の概念で、仮面と対立関係にある自分、自分にはないと思いついて入っている性格・感情・欲望、しばしば非常識で不道徳な自分の側面を表します。まさに自分の「夜」の部分です。「仮面」の対立概念である「影」も、確かに自分の一部であるとしつかり本人に認識されている場合は、何の問題も起きません。しかし人間は、常識や社会通念に合致している自分が自分のすべてであると思つた方が都合がいいわけです。そうなると、その社会的な都合と対立する概念である「影」の部分は、徐々に自分の一部とは認

識されなくなつてきます。その結果、人は自分の影を自分から（便宜上）切り離してしまい、外部の何か（人あるいは出来事など）に投影することになります。

青い瞳の女性の例で言えば、なぜ自分の瞳が青でないと思つたか（見えた目で人を判断してはいけないというすり込みがあった？）、そうした自分のチャームポイントが自分に備わっていることを認められず、それをセラピストという自分にとって魅力的な存在に映し出して見ていたわけです。

これが「影の投影」というメカニズムです。自分の影をどれだけ外部に投影しようが、その影が消えてなくなるわけではありません。やがて人は自分の影が自分めがけて襲いかかってくるように感じ始めて現れます。具体的な投影対象を持つている場合は、その人なり事象なりが、本当に自分に強迫的な働きかけをしてくるという妄想に陥る場合もあります。じつさい、他人のちよつとした言動に過剰反応する、といったことも起こります。また、具体的な投影対象を

持たない投影の場合は、漠然とした幻覚・幻聴などに襲われるといったケースも起こり得ます。

いったん症状が出ると、人はその症状が消えてほしいと願うどころか、その症状にしがみつくといい現象が現れます。なぜなら本人は、外部に投影した影が、もともとは自分の一部であるということとを認めたくないわけで、症状が出ているのは、まさに外部からの働きかけだからであり、影が自分の一部ではないという偽装工作を正当化してくれる証しとなるからです。つまり、投影すればするほど、もつと投影したくなるのです。自分の身近に適当な投影対象が見つからないと、あちらこちらを必死で探し回る、といったことさえ起こってきます。

事態はさらにエスカレートし、もつと深刻な事態が発生します。「相互投影」という現象です。

例えば青い瞳の女性の場合、「誰かが私を見下し、あざ笑っている」という投影を外部に仕掛けています。こういふ人が、「誰かが私に説教されたがっている」といふ影の投影を外部に仕掛けています。人物と出会ったらどうなるでしょ

う。いつも自信がなくなるとおどおどしている青い瞳の女性をつかまえて、ここぞとばかり正真正銘の説教が始まってしまうでしょう。「そんな調子だから、あなたはダメなのよ」といった具合です。

ここで、不幸な心の需要と供給の関係が成立してしまいます。青い瞳の女性の方は、「やっぱり、ここにも私を見下し、あざ笑う人がいるではないか」という具合に、自分の影の投影を正当化する証拠を相手に見出すこととなります。こうして、新たな投影対象を見出すことで、この女性の影の投影はさらに強化されます。

この「影の投影」は、誰の身にも日常的に起こり得ます。恋人、夫婦、親子、兄弟など、親しい間柄であればあるほど、相互投影しやすいという傾向もあるようです。しかし結局のところ、この影の投影は、誰かが自分を攻撃しているのではなく、自分で自分の首を絞めて「苦しい、誰か助けて！」と言っているだけのことですから、それに気づきさえすれば、人はその手を離しますから、その瞬間に痛み（症状）は消えます。自分の目は青ではないと思いついて入った女性

が、鏡を見せられた瞬間です。いわゆる「魔女狩り」だとか、ナチによるユダヤ人迫害だとか、白人至上主義者による黒人への攻撃といった社会現象は、この「影の投影」が集団的に起こった例として説明できるでしょう。

●人間の魂が肉体に宿った瞬間に起きたこと

問題はここからです。いよいよ、人類最古の葛藤の原点に遡ります。ラムジーさんが語ってくれたことのなかで、もっとも衝撃的で人類全体の深層にかかわることは、「人類は、誰一人例外なくその魂が宇宙から地球にやってきている」ということです。その目的は、それぞれの魂によって個別性はあるものの、総じて言うところ「壮大な生命の実験」だそうなんです。

宇宙を起源とする魂が、あるとき地球に集まり「地球ツアー」を始めます。魂たちは地球のエネルギー循環に乗り、期限付きの肉体に宿りました。肉体の期限は、魂の目的を果たすためには短すぎないため、魂たちは地球で転生を繰り返すようになりました。

ところが、人間はそうした転生の理由、地球ツアーの目的をすっかり忘れていきます。人間に何が起こったのでしょうか。

人間は生まれ落ちた（魂が肉体に宿った）瞬間から、激しい五感の洗礼を浴びます。地球は美しい星ですが、同時に天敵（捕食者）に襲われるかもしれない過酷なサバイバルの舞台でもあります。五感は地球の美しさを存分に味わう道具であると同時に、生き抜くための重要な道具ともなりました。人間はすっかり五感による認知に偏重していき、五感はますます研ぎ澄まされていきます。ところが、人間の認知機能は五感だけではありませんでした。第六感、第七感、第八感……。五感とは別にあるのではなく、五感を包括し統合する位置づけにあるそうした上位の感覚、いわば「宇宙感覚」「多次元感覚」とも呼ぶべき認知機能は、無意識の中に抑圧されることとなりました。つまり、「あるのにな」ことにされたのです。

しかし、どんなに抑圧しても、それがなくなるわけではありませぬ。むしろ抑圧すればするほど、それは強迫的なかたちで、私たち

に襲いかかってくる。つまり、五感を超える認知機能に対する「集団的な影の投影」が起きたのです。この投影の症状はこんな感じでしょうか。

「誰かが霊的な（目に見えない）パワーで私たちを支配する。私はそれに抵抗できない。」

投影が起きて以上、投影対象が激しく求められます。対象として選ばれたのは、ある種の権力者・支配者でした。つまり、私たちの代わりにこの世を救済してくれそうな人物、神の化身・代理人といったイメージの人物です。

こうした投影対象のプロフィールを描くなら、こんな感じでしょう。

○凡人にはない特別な力を持つ。

○カリスマ性があり、常識ではできそうもないことを軽々と成し遂げてしまう。

○強大な権力、財力、能力などを持つ。

具体的に言えば、王族、政治家、軍人、スポーツ選手、芸能人、学者、霊能者、預言者、ビジネスの成功者といった人たちが投影対象となります。その他にも、人間ではない超越的存在が投影対象にな

る場合もあります。その中には、悪魔や怪物なども含まれます。実は、神と悪魔は起源が同じなのです。神は「昼」を代表し、悪魔は「夜」を代表する、ただそれだけの違いです。

権力者・支配者が強力であればあるほど、民衆は霊的なパワーを激しく彼らに投影し、「支配―被支配」の構図はますますエスカレートしていきます。つまり、投影すればするほど、もっと投影したくなる、ということなんです。

皮肉なことに、私たちはもともと自分の一部だったものを羨望の眼差しで見詰め、崇め奉り、媚びへつらい、かしづき、ときに横暴だと文句を言っているのです。

権力者・支配者はますますエゴを増大させ、格差の溝はますます広がります。民衆はどんどん自らを「家畜」に貶めていきます。戦争をこし、貧困を生み、地球環境を破壊しているのは、ごく一部の特権階級かもしれませんが、階級制そのものを助長し、それにパワーを与えているのは私たち一般大衆なのです。

もうおわかりでしょう。これが人類最古の葛藤の原点です。おそ

らくこの状況は、文明の曙以来続いていきます。

● 集団投影への対処

これが集団的な影の投影である限り、その症状への処方は単純です。権力者や支配者に投影してしまっている強力な霊的パワーは、本来自分たちに備わっているものだということを思い出せばいいだけの話です。私たちは、自分で自分の首を絞め、「苦しい」と嘆き、そうした捻じ曲がった意識状態が現状を作り出していることに気づけばいいのです。これが「意識のエネルギーシフト」の第一段階でもあります。

ただし、ここで言う「霊的なパワー」とは、必ずしも「超能力」などとは限らないことに注意してください。そうしたパワーを個人が発揮するかしないかが問題なのではなく、投影してしまった影を再び自分に統合できるかどうかか問題なのです。ついでに言えば、霊的なパワーとは、物理的・社会的なパワー（身体能力や財力、権力など）と対立するのではなく、対立する二つのものを統合する力な

のです。

「あなたたちの信仰心は、魂の故郷に対する望郷の念なのです。つまり、あなたたちの信仰の対象は、常に自分の魂の中にあるということです。宗教的偶像とは、あなたたち自身です。」（ラムジー）

ラムジーさんとともに、今私がチャネリングしている宇宙存在の一人（三つの巨大な目を持つ女神）サラさんは、こう言っています。

『対象との究極の関係性とは「アイ」なのです。「(ア)合図」と「(イ)息吹」、つまり三次元の生命体であるあなたたちの中に、創造主の意図が現れることを意味します。(中略)』

あなたたちと地球との相互作用の結果は、随時報告され記録されるはずだったので。あなたたちは、相互作用の対象から自らを分離してしまっただけではなく、報告相手である宇宙意識からも分離してしまっているのです。』

最後に、ラムジーさんから皆様へのメッセージが届いていますので、ご紹介しておきます。

「私たちは、あなたたちを見ています。

地球は、美しい星です。あなたたちの魂は、地球を選んでやってきたことを思い出してください。

地球の美しさをもっと味わってください。

地球は、あなたたちの肉体です。あなたたちの魂は宇宙にあつて、地球を管理しているのです。

あなたたちは、いつでも私たちが繋がることができます。私たちは友だちです。」

☆ ☆

夢を学ぶことの意義(続き)

講師 大高ゆうこ氏

● 悪夢とは自分の根源からやってくる恩恵

確かに人は、夢日記をつけなくても、自己分析をしなくても、特に日々大きな革命を起こさなくても、そこそこ生きていけるかもしれません。しかし、それで済まな

くなることもあります。誰の人生にもターニングポイントはあるでしょう。それでも、「なかったことにする」自由も人間にはあるわけです。ただし、そういうときは悪夢が出て来ます。でも悪夢が恩恵なのです。夢を作り出している源というのは、「平凡な夢とか、気分のない夢では、こいつは変わらない」というのがわかっているのです。だから「気持ちの悪い夢とか強烈な夢とか、いわゆる悪夢だったら、この人は覚えていてくれて、それを解釈したい気持ちになるだろう」と。そこが夢を作り出している源の狙いであり、優しさであるというふうに私は思います。つまり悪夢であればあるほど、緊急度が高い重要なメッセージが含まれているということでもあります。

だから、悪夢を黙殺しようと思えばするほど、手を変え品を変え、繰り返し出てくるのです。それほど人間の「その人をその人たらしめている根源」は、その人に重要なことを気づかせようとし、その人を成長させようとしているのです。

●「自分を追い詰めるものと向き合うべし」

ある三十代の女性ですが、黒い影が自分の勉強部屋のドアの隙間からじっと見ている、という悪夢を小学生のころから繰り返し見ている、私と出会ったときは、精神疾患になってしまっていたのです。彼女自身がその夢を読み解けるように、ドリームワークのやり方を教えました。すると、その怯えていた黒い影というのは、彼女をずっと小さい頃から見守っていたお祖母様だということに、自分で気づいたのです。

その人は、うつ状態で、職場も辞めてしまっていて、一歩も外に出られない状態だったのですが、「ドリームワークに参加して、こんなふうに私は変わった」という体験記をフェイスブックに出してくれました。その人、今ビジネス系セミナーの講師になっていて、人前で喋れるようになっていましたね。

ドリームワークの中の一つに「自分を追い詰めるものと向き合え。向き合って『お前は誰だ』と聞け」

というのがあります。なかなか答えてくれないのですが、最終的にはその本人が「そうだったのか!」と、「追いかけてくるものを、こんな思い込みで見えていたのか」ということに気づいたときに、大変な変容が起きます。



●夢の中の敵と戦って戦利品を得ること

自分を追い詰めるものと向き合うときに、瞑想状態に入って、何かに追われる夢の続きをイメージの中で見て、その相手を叩きのめし、戦利品を得る、というのがあります。

瞑想の中で、まず集められるだ

けの味方を集めます。どんな味方と呼んでもよい、ウルトラマンでも自衛隊の一個師団でもよい。そしてありとあらゆる武器を手に、完膚なきまでに徹底的に敵を叩き潰すまで戦うわけです。とにかく途中で逃げない。その後相手の名前を聞いて、さらに「何か戦利品をよこせ!」と言うのです。そうすると思いがけない答えが返ってくるのですよ、例えば「私は時間です」とか。

こういう報告をしてくれた人がいました。「お前は誰だ」と聞いたら、「俺はお前だよ」と言った。その人、啞然としていましたけどね。そういうことですよ。

夢で戦うというと、「私は戦いたくないので」という人がいます。私の持論では「やってから何か言え。やる前に質問するな」というのがあって、「ワークの中でも戦うのはとんでもない」と言うものだから、「では帰ってください」と・・・。

イメージの中だけでも戦うことを避ける人は、現実でも自分のアイデンティティを賭けて戦うことから逃げているのです。それではいつまでたっても変わりません。

これは「自分の中の影と戦っていることに気づく」というワークですからね。

それで、戦利品を要求すると、何かくれるわけです。受け取った戦利品は絵に描いておきます。それは自分が戦った相手からの贈り物です。自分の中に取り込まれた物です。首狩り族が「首を飾る」という行為は、自分の力を誇示しているのではなく、戦って自分が殺した相手の魂を自分の中に取り込むという意味なのです。それと同じ考え方ですね。その戦利品の意味は、あとからじっくり考えればいいのです。

●姑を殺して埋めることで和解する

現実にも私経験があります。私は姑と仲がよくありませんでした。私は義母を恐れていたのです。義母は精神的な病で入院していたのですが、私が見舞いに行くのを、「患者が興奮するから」と病院に止められていました。

義母を対象に何度も何度もドリームワークをやって、いろんな手段で義母を殺そうとするのですが、

しぶとく立ち上がってくるのです。イメージの中でも自分の義母を殺すというのは、こんなに辛いことなのかと・・・最後に殺せました。穴を掘って埋めたのです。

そのワークをやった翌日に病院から電話がかかってきて、「今安定しているので、お見舞いに来ていいですよ」と言われて、お見舞いに行ったら、あんなに怖かった義母が小さな老人になっていてと実感して、義母の方も「よく来てくれた」と言っていて、一人で泣きながら抱き合いました。義母の精神的な病もあったので、めちゃくちゃな言動とかが、いかに私の恐怖の対象だったのか、ということに気づきました。

自分が作った敵なので、自分から仲よくなれるわけです。

●自分で作った牢獄の囚人になっ
ていないか

常識とか教育観とか、思い込みの世界で生きることが安全だとする、「すり込み」からいかに解放されるか、それが「戦いのワーク」の趣旨です。

自分で作っている牢獄なのです。

独房にいる囚人とその囚人を見張る役目の看守とどちらが不幸か、という話があります。四六時中見張っていないとはいけない看守の方が、どれだけ精神を病むか。看守の役を自分自身がやっていることに気づけば楽になります。

「自分の設計図に基づいて人生を生きてよいのだな」と、ストンと腑に落ちるのですよ。人に命令されたり、人の意見に追従して生きるといえるのは、ある意味すごく楽なことなんでね。楽な方を動物としては選ぶということもあります。人間は何にでも逃げますから、修行にすら逃げます。「修行している自分」というアイデンティティに安住してしまうのです。

よく「協調性」とか「対話路線」とか言いますが、対話路線の奥に隠しているものを持ったまま対話してもダメです。だから繰り返すのです。何かを変えるのは苦しいですけど、やる価値はあるんじゃないですかね。

●寝てみる夢と叶える夢はリンク
している

寝ているときの夢をドリームワ

ークして、自分が本当に心の底から望んでいるものは何かということと把握すると、今まで自分が叶えたいと思っていた夢が、実は本質ではなかったということに気づく場合があります。

例えば、「大金持ちになった。だけど脱税でつかまってしまった」とします。では、この人は自分の夢を叶えたのか？それは私に言わせれば「本質的に求めていたものは、お金持ちになることではなくて、世間から注目を浴びることだった」となります。よいことであれ悪いことであれ、世間から注目を浴びることが、この人がいちばん心の奥底で望んでいたことかもしれないのです。

そのことをドリームワークでもっと事前にわかっていたら、「金儲け」という「隠れ蓑」に隠れた自分の本当の願いに気づいたかもしれない。具体的にそういう人がいるのですが、その人は生育歴の中で親に認めてもらえなかったという傷を負ったまま、親を見返すためにお金を儲ける、というふうに発想が展開していつてしまったのです。

ドリームワークをやることで、

自分の本当に叶えたいことは何かということを知る。それを知ることと、現実になんか叶える第一歩という青写真を描ける、ということがあります。一足飛びにそこへ行く必要はないので、自分が最終的に叶えたい夢に行くために、小さな成功体験を積み重ねるにはどうしたらよいか、協力者を求めるにはどうしたらよいか、という道筋が立ってくるのではないかと思えます。夢を叶えるというと、大きなことではないといけない、みたいな思い込みは返って邪魔になります。

とにかく夢は、本人に気づいてほしいことがあれば、「気づけよ」とノックし続けてくれるのです。それぐらい人の心の奥底というのは熱心なのです。(つづく)



第四一九回関西日本サイ 科学会研究集会報告

日本文明の元はシュメール、エジプト。そのシュメール、エジプトに突然現れた都市文明建設に関わった異星人たちとは

講師 坂井 洋一氏

とき 平成29年6月17日
ところ 大阪科学技術センター

坂井洋一氏プロフィール

1953年茨城県日立市生まれ。慶応大学経済学部卒業。映画企画プロデューサー兼映画バイヤー。作詞作曲家。古代秘史ハンター。30年ほど映画や音楽の仕事に携わってきたが、近年は隠された日本の古代史に興味をもち、比較言語学というツールを駆使して解明した結果、日本語のベースがシュメール語や古代エジプト語でできていることが判明。2016年、ヒカルランド社より「日本の始まりはシュメール」を刊行。2017年夏、その続編ともいえる新刊を発売予定。

また、波動の高い日本古来の和歌や数え歌にメロディをつけ、「コトダマミュージック」という日本発のジャンルとして世界に発信すべくCD制作やコンサート活動を積極的に進めている。



☆ ☆

日本の元はシュメール、エジプト。シュメール、エジプトの元はニビルとシリウス。つまり、地球の現代文明は宇宙の異星からもたらされた。

まず日本の2大聖地を比較言語学から検証する。

伊勢と出雲。数年前にダブル遷宮を迎えたこの二大聖地の地名の発音のなかにはシュメール語がひ

そんでいた。伊勢と出雲という漢字は当て字。そこからは伊勢や出雲の本来の意味は読み取れない。しかし、ISE、IZUMOと書くとき共通点が浮かび上がる。ともに「カ

ら始まっている。シュメールや古代エジプトでは神々を数字を使ってニツクネームで読む習慣があった。そこから言えることは、「古

代日本の数字の読み方でいけば5という数字になる。ひ、ふ、み、よ、いのい。つまり伊勢、出雲とも5という数字から始まっている。出雲というのは、IZUMO。Iは5、つまり5の神様。ZUMOというのは、ZUMAというシュメール語の祈ることばがなまったもの。つまり、出雲というのは、「5の神に祈る」という地名だった。

日御碕の沖合いでみつけた古代の海底神殿に古代エジプト文字が刻まれているのを発見したので、この5の神はエジプトの太陽の運行を司る地上神ゲブであることが分かる。つまり古代出雲で祭っていたのはエジプトの神だった。一方の伊勢は、ISEと分けたとき

に、「Iは5だが、SEも数字。古代日本では「十」をトウやジュウでなく、「ソ」と発音していた。たとえ

ば、あいいうえお48音にはそれぞれに神が宿っているのを古文獻「ホツマツタエ」ではヨソヤの神と言っている。また、人名でも山本五十六では「十」を「ソ」と発音し、山田五十鈴では「十」を「ス」を発音している。古代、ここが倭国だったころから、倭人は「十」をサ行で発音していた。これは古代シュメール語で「十」を「シユ」と発音していたことによる。つまり、伊勢とは50という地名であり、そこには50の数字が入っている五十鈴川が流れているし、伊勢を聖地に定め皇祖を祭った天皇は崇神と垂仁。おどろくべきことにこのお二人の天皇の和風諡号にはともに50が入っている！シュメールの天津神には50の数字をニツクネームにもつ神がいる。風神エンリルだ。風の神！追い打ちをかけるように伊勢を和歌で歌うときに必ずつけないければならないマクラことばは「神風の」。まさにそこに風の神が入っている。また、内宮、外宮ともに風の宮が撰社に祭られている。この風の宮の神がもともとの伊勢の神だったのだ！

二大聖地の地名からシュメール

語で地名の意味を読み解いたが、北海道の最北端の網走から九州の最南端の枕崎にいたるまで、日本の古い地名はほとんど古代シュメール語やエジプト語で読み解ける。網走。網が走る、では意味をなさなく。発音から探ると、ABBA SIRI。ABBAはシュメール語の父。SIRIは蛇。古代シュメール、エジプトでは動物も神としてあがめられていた。

つまり、網走は、父なる蛇神様という地名になるつぎに枕崎。寝る時の枕とはまったく関係がない。MAKURA SAKI。MAKURAは、大きな船を意味するシュメール語、マ・グルがバビロニア語で清音化してマ・クルになり、それを倭人たちがマ・クラと訛った。またSAKI(さき)は、シュメール語の「漁民」を意味するシュ・ク・ア。それが訛って、スカとかサキになった。つまり枕崎というのは、大きな船でやってきたシュメールの漁民、という意味になり、日本最南端の港の名にふさわしい。かたや、古代エジプト人たちは自分たちのクニをエジプトとは言ってなかった。エジプトというのはのちのギリシャ人たちが名付けたもの。

古代エジプト人たちは自分たちの国名を「ケメト」と言った。意味は黒い大地。毎年7月になるとナイル川が氾濫し、地味豊かな黒い土を運んできて、そこに種をまけば穀物が豊かにみるので、彼らは自国をケメトと呼んだ。

古代エジプト語には母音がないので、子音でかけばKMT。このKMTの子音が入った地名が日本にはいくつもある。例えば、KAMATA(蒲田)、KINITU(君津)。MとBは比較言語学でいうと簡単に入れ替わるので、KIBITU(吉備津)。また、北九州と茨城県に集中している彩色古墳には、古代エジプトの船が描かれたり、セム文字でゲブ(神)と読める文字が描かれている。エジプト人たちがエジプト船に乗ってやってきた動かぬ証拠だ。東京国立博物館の縄文館には、古代シュメール、エジプト、バビロニアの文字が刻まれた縄文土器が展示してある。いままで、こういうものが単なる文様として片付けられてきた。比較言語学というツールを導入すれば、面白いように日本の城門、弥生と呼ばれる時代の真実が解明される。和歌をつくることによって問題解

決をしていたと書かれている古文書「ホツマツタエ」にも古代シュメールやエジプト系の言葉が散見される。

たとえば、「ホツマツタエ」は、ひとことというところ、水田稲作を日本列島に広めたリーダーたちの物語だが、その叙事詩でいちばん重要なコメとか稲ということばが、なぜか「ソロ」とか「ゾロ」と書かれている。これは国学だけでは読み解けない。

そもそも、古代エジプトで穀物(麦)のことをシャといった。その農民たちがインド地方に移住してコメを開発したときに、新しいコメという穀物につける言葉をつくった。自国語の穀物シャに、豊穡の女神リシュをつけて、シャリシュという言葉をつくった。これが倭人たちによってシャリと縮められ、さらに母音転訛でソロになり、濁音化でゾロにもなった。ちなみに今でも韓国ではコメはシャリシュから転訛したサル。

日本神話の猿田彦はお猿さんとは関係がなく、サルタ=米・田。つまり大農園主の意味になる。日本のはとんどの古い地名、神名、氏名はシュメール語や古代エジプ

ト語で解釈できる。それほど古代世界はつながっていた。

そのシュメール、エジプト文明がどこからもたらされたかについては、いまだにはつきりとした定説も痕跡もない。つまり、両文明はある日突然花開いたのだ。突然文字をもち、数字をあやつり、天文学に目覚め、資源をさがして大きな船を作って世界に航海にでていった。実は現代世界で最も古いとされる両文明をもたらしたのは異星人である可能性が極めて高い。ひとつには、彼らには、自分たちに文明を授けてくれたのは、シリウス人であるという傍証がある。

西アフリカにマリ共和国があり、そこにいまでも住んでいる先住民のドゴン族は、何千年も昔から、シリウスBとシリウスCの存在を知っていて、地球の文明はそこから来たという伝承をもつ。決定的なのは、彼らは太古の昔から、シリウスBとシリウスCという伴星がシリウスの回りを50年周期で公転しているのを知っていたこと。現代文明は、シリウスBの存在を19世紀に、シリウスCの存在を1990年代に知ったばかりだ。また、そこからやってきた両生類

の生物がエジプトに文明を授けたという。

一方、シユメールの古文獻には、シユメールに文明を授けたのはオアンネスと呼ばれる両生類であると書かれ絵も残されている。古代エジプトは暦としてシリウス暦を採用した。毎年70日間、エジプトから見えなくなったシリウスが7月に太陽とともに上がってくる。その日を元日とした暦だ。それを合図にナイル川が氾濫しエジプトに豊かさがもたらされた。現代文明では作りえないといわれるギザ台地の大ピラミッドの玄室からは古代からシリウスが観察されていたのもわかっている。

宇宙からもたらされたシユメール文明、エジプト文明という兄弟文明が現代文明のもととなつているのは確実だ。

☆ ☆

当日の参加者は会員10名、非会員18名、計28名でした。

(関西日本サイ科学会会長

河野明夫)

第四二〇回関西日本サイ科学会研究集会報告

金山巨石群の太陽暦法

講師 小林由来氏 徳田紫穂氏
(金山巨石群リサーチセンター)

とき 平成29年7月15日

ところ 大阪科学技術センター

小林由来氏 Yoshiki Kobayashi
画家。サロン・ド・フィナール会員、日本日時計の会会員、日本暦学会会員。金山巨石群リサーチセンター長。著書『金山巨石群の「縄文」太陽観測ガイド』(株三五館/2016年9月発行)。

1997年、線を主体にした『記号表現』の創作を試みていた折、偶然巨石に見つけた「線刻らしきもの」を『記号表現』と考え、その意味や機能性を探し始めたことが金山巨石群調査の始まりとなる。

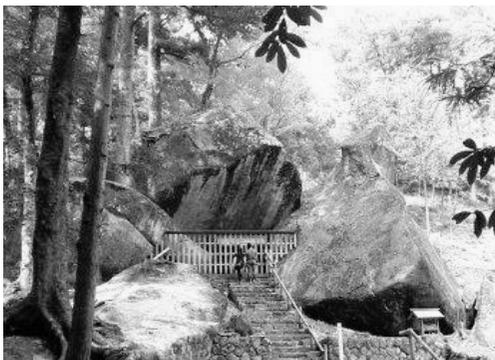
☆ ☆

金山巨石群は、岐阜県の山間部に位置する県の史跡(縄文時代)「岩屋岩蔭遺跡【写真1】」を含む3か所の巨石群の総称である。1998年からの考古天文学調査により、縄文時代に起源をもつ太陽カレンダーであることは、これまで数多く公開してきた。2004年にはイギリス日時計国際会議において、日本日時計会・前会長である後藤晶男氏のご指導により金山巨石群の紹介もさせていただき2008年のスペイン・クエンカで行われた画家又木啓子氏による日時計国際会議にも参加させていただいた。そしてようやく昨年2016年には、18年間の調査記録をまとめたガイドブック(写真集)も出版された。ここではガイドブックの要点および最新の考察についてレポートしたい。

まず金山巨石群は、1日の時間帯を区別するための日時計というよりは、年間の時期を区別するための太陽観測によるカレンダーである。その根拠のひとつが、ある巨石に刻まれている。「3つの楕円形と2本の線刻」である。楕円形は夏至の頃に巨石群へ射し込む

スポット光の形を描き、線刻は夏至の太陽軌跡を象徴的に刻んでいるのである。夏至の到来を意味する痕跡である。そのほか夏至や冬至、春分・秋分はもとより、年間の正確な日数および閏年観測ができる石組みも存在する。これらの事実関係は、古代、飛驒の山間部において太陽観測による暦が存在していたことを裏付けるものであると私たちは確信している。

【写真1】岩屋岩蔭遺跡巨石群



基礎的な太陽観測

金山巨石群では、夏至や冬至

の頃、春分・秋分前後など季節の節目の時期に、山から昇る、または山へ沈む太陽光などをとらえることができる。さらに古代エジプト遺跡と共通する夏至・秋分(春分)・冬至のそれぞれの中間の日を観測することができる。しかしここでいう「中間の日」は、日数の中間ではなく、太陽軌跡が日々移動する範囲の中間であることに注目したい。

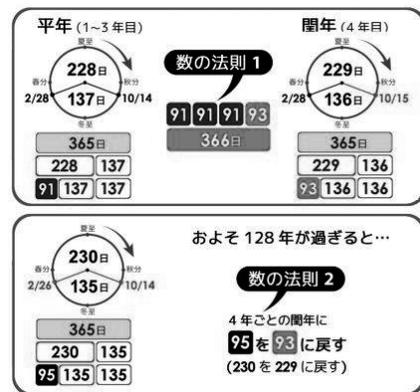
高精度な太陽観測

基礎的な太陽カレンダーに加え、金山巨石群には、さらに高度な観測法が存在している。山間部という太陽観測には一見不利と思われる条件を克服するための太陽スポット光が利用されているのである。このスポット光観測によって、夏至や冬至の日が特定できると同時に、春分と秋分の頃の観測から、閏年を知ることができるのである。この閏年観測には、ある数の法則がありその数値を保持できる期間が修正を必要としないしくみである。

4年周期の閏年観測(数の法則1)
閏年を観測する石組み(a b c)

は岩屋岩蔭遺跡内に存在する。2000年の発掘調査によって出現した石組みである。春分と秋分の頃、巨石群内に射し込むスポット光の位置は1日ごとに4センチメートルの移動を伴う。特にb石でのスポット光観測によって、閏年を判定できるしくみがある。b石の先端を光が横切る日は年に2回、3年間は10月14日と2月28日で、4年目は10月15日と2月28日である。これを縄文時代に観ていたと仮定するなら、現在のグレゴリオ暦に基づく日付を用いることはできない。ならば日数を観ていたとしよう。3年間は10月14日から2月28日までの137日、4年目は136日である。これを年間の日数で表すと【図1】のようになる。このように見ていくと円グラフの下に書かれた数値91日と93日が導き出される。これらの数値に注目すると、3年間は91、4年目は93となり、4年間の数値を合計すると $91 + 91 + 91 + 93 = 366$ 、つまり年間日数が導かれる。この数式が金山巨石群での太陽観測による4年周期の数の法則1である。

【図1】閏年観測に関する数の法則1、2



128年周期の閏年観測(数の法則2)

4年周期の観測を続けていくと、やがて数の法則1の数値が保持できなくなるときがやってくる。修正のときである。これは周知のとおり、1年の正確な長さは365日と6時間ちようどではないからである。正確にはそれよりも11分14秒短い。このわずかなズレは、128年経過すると1日に達する。金山巨石群では、春分と秋分の頃のスポット光の位置は、1日で4センチメートルの移動を伴うことから、4年周期の閏年観測を128年間続けると、さらに

光の位置は4センチメートルのズレを生じることになる。つまり32年ごとに1センチメートルのズレを生じる。

この影響で数の法則1は4年目の数値93が95と変化する。このとき95を93に戻す修正が必要となるわけである。これが数の法則2である。これらは過去15年間の年2回のスポット光観測データと長期的な太陽高度データとの照合から得られた結果である。次の修正のときは2094年頃にやってくる。

ここからが、ガイドブックには載っていない最新の考察である。古代ではなく未来を見据えた金山巨石群の暦の精度についてである。【図2】を参照しながら読み進めていただきたい。

グレゴリオ暦が1日のズレを生じるとき金山巨石群でそのズレを讀みとることは可能か?!

西暦1582年、西洋の暦がグレゴリオ暦に改暦されて以降、金山暦では、最初の128年周期のとき1710年に修正を加え閏年を1回省く。しかしグレゴリオ暦

ではそれよりも10年早い1700年に修正を加える。そのため1700年から2100年までの400年間では、128年周期の暦と約6年間1日分のズレが生じる。2100年から2500年では222年間(16年+6年)1日分のズレが生じる。

このように2100年から400年ごとに、ズレを生じる期間が16年ずつ増えていくことで128年周期の暦と1日分のズレを生じる期間が長くなっていく。

この1日分のズレを生じる期間が128年(16年周期×8回目)に達したとき《1700年から約3200年(400年×8回目)後の西暦4900年頃》、1日を省き修正を加えればそのズレは解消されるが、グレゴリオ暦は修正を加えない。そのため1日分のズレは積み重なり、4900年以降は2日分のズレを生じる期間に入る。では西暦4900年頃、グレゴリオ暦が1日のズレを生じるとき、金山暦の太陽観測でそのズレを読みとることは可能か(!?)

答えはイエスである。金山暦には、スポット光観測における4年周期および128年周期を測り

数える数の法則が存在する。西暦4900年頃になると、128年周期の暦(金山暦)はグレゴリオ暦と日付が1日ズレた状態が確認できる。このタイミングで金山暦の数の法則に狂いが生じることから、そのズレを読みとることが可能となるのだ。

金山巨石群の太陽カレンダーは、グレゴリオ暦へ改暦されるはるか昔より、この精度を保持し続けて

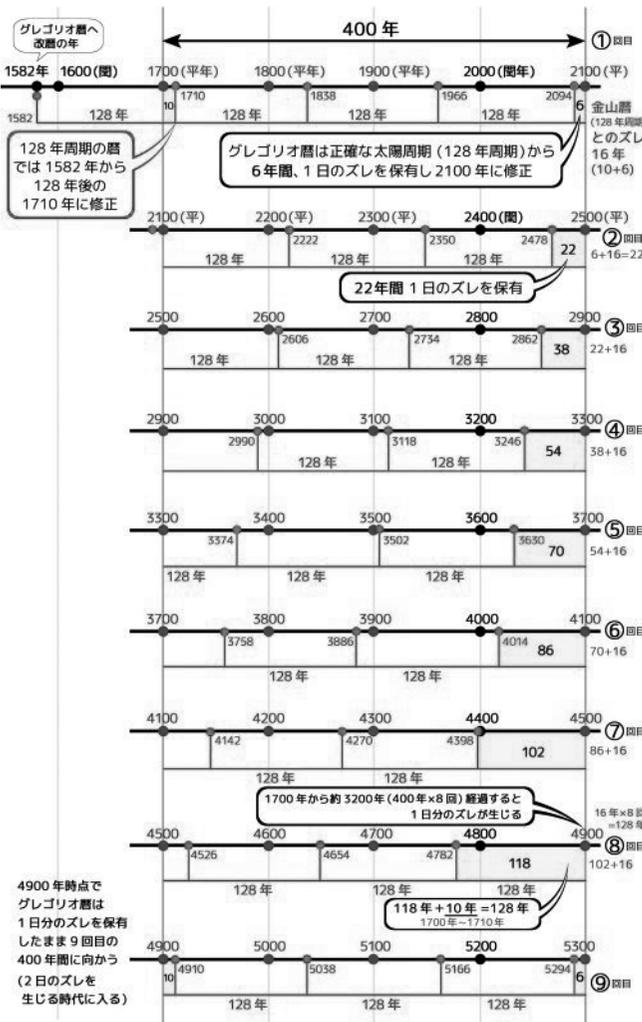
いることは信じがたくも事実なのである。

【ガイドブック】

『日本初！古代太陽暦の証を発見・金山巨石群の「縄文」太陽観測ガイド』／小林由来・徳田紫穂著／三五館／2016年／フルカラーA4判72ページ／定価(本体1200円+税)／ISBN9784・88320・677・3

【お問合せ】金山巨石群調査資料室
TEL0576・34・0073
E-mail oofuku@fancy.ocn.ne.jp

当日の参加者は会員10名、非会員12名、学生1名、計23名であった。
(関西日本サイ科学会会長 河野明夫)



【図2】グレゴリオ暦が1日のズレを生じるとき

かい綿状集合体の光雲状群であり、存在する時間の大部分は乳白色である。しかし時々には黄、オレンジ、ダイダイ、赤、青、等に、ランダムに、変化する場合もある(近赤外光～可視光の間で変化する)。(13) 変化挙動をみると、ゆらゆらと回転し、くねくねと螺旋状にスピンドルするように見える。(14) 時々には、勢いが増して、2個に分裂する場合もあるが、また1個になる。(15) デジタル・カメラの液晶モニターの枠外に飛び出す、「キテ」、「キテ」・・・と、お願いすると、すぐに戻ってくる。(16) 時には、別のオーブ、例えば略称「シリウスちゃん」が飛び込んでくる場合もある。しかし——「いまは、金星ちゃんだよ」——と言うと、「金星ちゃん」に入れ替わってしまう。また、(17) 出現オーブに話し掛けると、飲んで踊ってみせる。つまり、(18) 意識のある生命体状である。

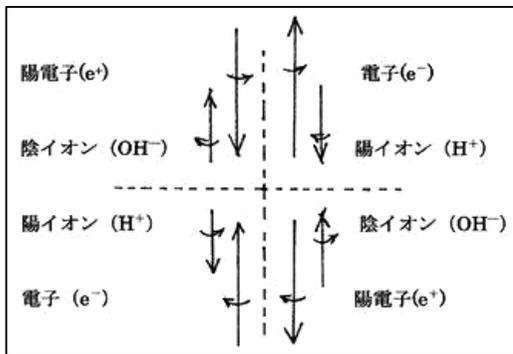


図3 PSI (電子、イオン) spin対群

3-3) 観察結果の解釈

上記の観察・測定結果を都合よく解釈するために、図3のモデル(仮定)を提案する。例えば、ベクトル群の上半分は前報の図1(PSIJ, No.433, 2017年5・6月号)と内容的に同一であり、下半分を追加して図3とした。図において、一番上にある陽電子と電子は一对の大きな巴型右回りスピンドル群。その下の陰イオンと陽イオンは小さな巴型左回りスピンドル群。横点線より下にある陽イオンと陰イオンは右回り巴型スピンドル群。その下の電子と陽電子は左回り巴型スピンドル群を意味している。これらの中心には核としてのエアゾールがある。なお、意識的な性質

を述べる場合には、この陰・陽イオン対は陰・陽プラナ(気、微細身素粒子)に置き換えて解説・判断することにした。大きなベクトルの陽電子・電子対は図3の縦方向に書いてある点線と同じ方向であり、S極からN極に向かう地球磁力線と一致している。つまりベクトルは磁力線を意味している。他方、ベクトルのスピンドル(回転の)方向はベクトルと直交しており、電流の流れる方向を示している。つまり、巴型スピンドル対群の回転方向は電流の流れる方向を示し、ベクトルは地球の磁力線方向と一致している。地球の磁力線方向はほぼ一定(不変)であり、電流方向としての横方向は、クーロン力の遠距離作用力のために、様々な変動があり、またベクトルの方向も変化するので、結果としてオーブの諸変化の理由になっている、と推定している。

纏めると、(1) 呼びかけに応じて出現(発生、生起)し、成長を続ける。つまり、ネガエントロピーと呼ばれるように、姿、形、状態などを整えながら次第に成長する。(2) 他のシステム(例、大気中の帯電諸物質)とエネルギー、物質、情報を交換しあうことにより自己を維持し、成長を続けている。(3) 例えば、点状、芽状、ラビット・オーブ状、熟成期、消滅期となる。(4) 発生のごく初期段階の変化は急速であり、活発な動きがある。これは吸引力(例えば、陰と陽間の)と反発力(陰と陰、陽と陽)が初期程活発に変化するためであろう。(5) 成熟期のスピンドル・オーブは、静止画像として撮影される場合が多いと判断している。このとき、スピンドル・オーブ「たまゆら」は、Haloを持つ円形状で、輪郭があり、円内部に様々な模様(非対称干渉縞など、表情)を伴っている。(6) 波動としては、テスラ波(縦波、粗密波)として存在している様子である。(7) スピンドル・オーブは自己発光体である。(8) 体外にあるオーブと被験者の意識との間には情報の交換がある。つまり一種のマクロPKである。

以上、本稿ではこれに類似した性質を持つラビット・オーブを大気イオン生命体と仮称することにした。



図1 巴型イオン・ボール

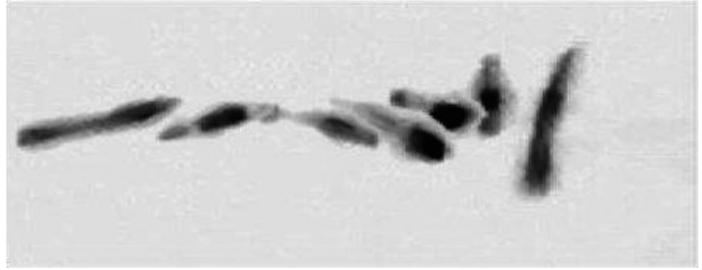


図2 ラビット・動オーブの短時間変化
1/30秒ごとにチャプター（黒色を白色に反転）

粒子) から成る「サイ意識(霊)要素 (PSI-spin 群)」も含まれている。また、イオン・ボールにサイ意識(霊)要素が混入したものを、オーブ(たまゆら)、またはスピリット・オーブと呼んでいる。イオン・ボールは、さらに、絞り込まれてゼロ場(ゼロ点)を形成する。ところで、オーブ(たまゆら)は、意識が関与するマクロPK(念力)として出現している。つまり、撮影者の意識(変性意識状態、ASC)と体外にあるオーブとは同調し、情報の交換を介して、式(1)等を介して出現・生起してくる。一方、「たまゆら」はエネルギー一定条件で発生・生起する(別報)。

なお、零場中の変換点、つまり「零点」にはオーブの基としてのPSI-spin群が縦波(テスラ波)として存在している(大気中から混入)。このとき、エネルギー体としての人の皮膚から射出された気(プラナ)は、7.8Hzのテスラ波に乗って、両者間で同調して、情報交換をすることになる。なお7.8Hzの電磁波は周知のシューマン共振波と云われており、横波であるが、また縦波でもある(低周波数なので区別がつかない)。

3-2) 変化するラビット・オーブ

ラビット・オーブはオーブ出現の極初期過程の形姿であると判断している。動的な測定内容とその結果は、既に前報(PSIJ、2017年3・4月号)で報告したので、ここでは略述する。デジカメとビデオカメラを用いて、2016年2月15日～17日の晴れた夜、長野県伊那市で、特異能力者佐藤禎花師(女史)によって撮影された。兎が飛び跳ねるような活発な動きをするので、ラビット・オーブ(RO)と仮称した。動画に記録された2分11秒～12秒間のコマ送り画像を、

1/30秒ごとに、チャプターした7枚を1枚の画像に加算・表示して図2とした。ただし見易いように(明、暗)を変転してある。また動画なので、フラッシュ光は用いていない。(1)マクロな芽オーブは、柔らかい感じの自己発光体で、平静的な移動時には、ほぼ球形状でありHaloを伴う。(2)急速な移動時には、昆虫の幼虫または或種の生命体に似た形状を示し、頭と胴体と尾と思われる部分がある。これが丸まるとほぼ球形状になる。(3)その長さ、太さ、色合い等(形状・寸法、色)は、横方向に移動しながら、非均質に変化する。(4)例えばピーンと伸びて、つぎに丸くなり、約90度方向を変え、同時に約180度反転して頭と尾が入れ替わる。(5)引き続いて横方向に移動する。(6)ピーンと伸びる。つぎに丸まる。このとき2部分に分割する場合もある。(7)反転、球形、伸びる、縮小する、などを繰り返す。推察すると、(8)夜空に、動オーブがキラキラ輝いて見える原因は、この反転や諸変化のためかも知れない。(9)このような(1)～(8)等の変化は、約6～9Hzごとに現れており、動作からみると、自ら発光するイオン生命体で、周知の、地球共振電磁波のシューマン・レゾナンス(7.8Hz)に同調して変化する様子である。つまり、(10)発生のごく初期段階の芽オーブとしてのラビット・オーブ(発光球体)は形状、寸法、色合い(周波数)、方向等が変化する。つまり、(11)ライトペンのような単一光源体ではなく、陰・陽イオン生命体状である。

他の一例を述べる。別報(PSIJ、2015年11・12月号)で報告してある。実験条件は上記と同一である。(12)オーブ像は、変形しやすい柔ら



〒271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町41-506 日本サイ科学会発行

電話 047-347-3546 FAX 047-330-4091 E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp

公式サイト <http://psi-science.sakura.ne.jp> ML申し込み先 office21@psij.mail-box.ne.jp

大気イオン生命体としてのラビット・オーブについて

佐々木 茂美

1. はしがき

いまから107年前にESP(超感覚)やPK(念力)などの超常(サイ)現象を科学研究するための学会「SPR」が英国で創設された。最近になると、デジタル・カメラの普及に伴って新たな超常現象として(1950年後半)オーブ現象が出現してきた。しかし、超常現象は意識が関係しており、意識は科学的な測定がなかったので、現象の原因究明には到らなかった。

そこで今回、筆者らは、オーブの諸現象の中から一例を選び、意識的(生命的)と思われる現象に注目して、初歩的な検討を試みることにした。なお生命体は、意識の作用を基にして、エントロピーを減少させながら成長する傾向がある。本稿ではこれに類似した性質を持つラビット・芽オーブを大気イオン生命体と仮称することにした。

2. 従来の研究結果(文献調査)

(1) マクロPK(念力)は、対象物を構成している物質の、不安定性を持つ原子核内の中性子の質量 m がエネルギー E に変わり、

$$E = mc^2, \quad c = \text{光速} \cdot \cdot \cdot (1)$$

この E による力を用いて発生する、とスウェーデン人のH.Forwardは、米国Duke大学におけるサイコロ投下の実験結果から推定した(1951)、(例:サイ科学、Vol.1、No.3、pp22-27、関英男先生文献紹介)。

(2) 筆者ら(2017年、PSIJ、9・10月号)は、発功時の(エネルギー体として存在する)生体から陰・陽プラナ(気)が放出されて、これがテス

ラ波(縦波)となり、直接不安定な原子核(主としてH原子とN原子)の中の中性子に作用して、式(1)を介してエネルギー E を得る。これがオーブの主要なエネルギー源になる、と推定した。

(3) M.Ledwith並びにK.Heinemannによると(2007)、デジタル・カメラを用いてフラッシュ撮影すると、オーブは自らが発光して小円状のノイズとして撮影されてくる。継続して撮影すると、出現頻度は約100倍程度にまで(再現性、約1/3)増加する。またオーブは超高速で移動し、瞬間的に停止する。それらを総合すると、オーブは知性と能力を備えた生命体であるらしいと判断した。

3. ラビット・オーブの出現

3-1) 大気中で形成されるオーブ

地球は電磁気学的には巨大な球形・地球コンデンサー(約30万V)として存在している(直流電場)。このほかに、雷による活動並びに地磁気の脈動等に伴って発生する周波数1~10Hz、10.2~10.3V/m程度の微細な交流電場もある。このために大気中に存在するエアゾール(埃、微粒子)は帯電しており、また空気成分は電離して大気陰イオン、大気陽イオン、電子になっている。これらはスピンしているので、エアゾールを核にして大気陰イオン・ボールならびに陽イオン・ボールが形成され、さらに、相互作用によって結合されて「ともえ、巴」状となり、これが絞り込まれて、図1に示した大気陰・陽イオン・ボールになる。

この中には、陰・陽のプラナ(気、微細身素